

vol.

福島県男女共生センター広報誌

71

2019

SUMMER

Public relations magazine
MIRAIKAN NEWS

「男女共同参画社会」の実現を目指す

特集

福島県の高校生の ジェンダー環境に関する調査

- 「ジェンダー」に関するオススメ本
- 未来館フェスティバル2019のお知らせ
- 福島県の「農業女子」福福堂代表 稲福由梨さん



未来館
NEWS

「福島県の高校生のジェンダー環境に関する調査」

平成30年度に県内の高校生及び教員を対象に実施した「福島県の高校生のジェンダー環境に関する調査」の結果について概要を報告します。

調査の目的

平成12、19、24年度に同様の調査を行いましたが、前回調査から6年が経過し、学校や家庭における本県の高校生を取り巻く環境や男女共同参画に関する意識がどのように変化したのか、これまでの調査結果と比較するため、前回と同様に以下の4つの視点で目的を設定し、アンケート調査を行いました。

- ① 高校生や教員の目に学校、家庭、社会等における男女の地位がどのように映っているのか。
- ② 学校や家庭において、女子と男子では扱われ方に違いはあるのか、または教員や保護者の接し方に違いはあるのか。
- ③ 高校生及び教員の男女についての考え方があるのか。
- ④ 既存のものしくは予想される男女共同参画プランや考えられる施策にどのような反応を示すのか。

調査の方法

対象高校は前回と同様に設定し、質問項目は下記の質問を追加して調査しました。平成30年4月に各学校の協力のもと、教員と生徒に配布して同年8月までに回収が完了しました。

前回の調査票に追加した項目は次のとおりです。

- 教員用・生徒用共通：性自認（性別）
「どちらともいえない」
- 教員用質問3-5
「自己の性別に違和感を持つ生徒について、本人や他の生徒から相談を受けたことがある。」
- 教員用質問4-6、7
質問4-6：「質問3-5について、誤解や偏見が起きないよう、生徒への授業が必要である。」
質問4-7：「質問4-6について、そのためには、まず教師への研修が必要である。」
- 教員用質問8-11、12、13
「LGBT」「性自認」「性的指向」
- 生徒用質問9-13
「自己の性別に違和感を持つ人にも、普通に接することができる。」
- 生徒用質問14-7
「LGBT」

配布数：生徒用4,043部、教員用676部
回収数：生徒用3,971部、教員用613部
回収率：生徒用98%、教員用91%

生徒の基本属性

	度数(%)		度数(%)		度数(%)
女 子	2,031 (51.1)	1年生	1,974 (49.7)	県 北	798 (20.1)
男 子	1,849 (46.6)	2年生	1,373 (34.6)	県 中	798 (20.1)
どちらともいえない	25 (0.6)	3年生	594 (15.0)	県 南	365 (9.2)
無回答	66 (1.7)	無回答	30 (0.8)	会 津	841 (21.2)
				相 双	335 (8.4)
				いわき	834 (21.0)
				無回答	0 (0)



教員の基本属性

	度数(%)		度数(%)		度数(%)	(女性、男性、どちらともいえない、無回答)
女 性	256 (41.8)	県 北	96 (15.7)	家 庭	22 (3.6)	(22, 0, 0, 0)
男 性	353 (57.6)	県 中	138 (22.5)	外 国 語	77 (12.6)	(47, 30, 0, 0)
どちらともいえない	0 (0)	県 南	54 (8.8)	国 語	77 (12.6)	(43, 34, 0, 0)
無回答	4 (0.7)	会 津	149 (23.8)	社 会	65 (10.6)	(20, 45, 0, 0)
		相 双	51 (8.3)	商 業	36 (5.9)	(15, 21, 0, 0)
		いわき	128 (20.9)	数 学	95 (15.5)	(23, 72, 0, 0)
		無回答	0 (0)	保 健 体 育	37 (6.0)	(10, 27, 0, 0)
				理 科	75 (12.2)	(27, 48, 0, 0)
				そ の 他	91 (14.8)	(28, 63, 0, 0)
				無回答	38 (6.2)	(21, 13, 0, 4)

※四捨五入により、割合の合計が100%にならないことがあります。

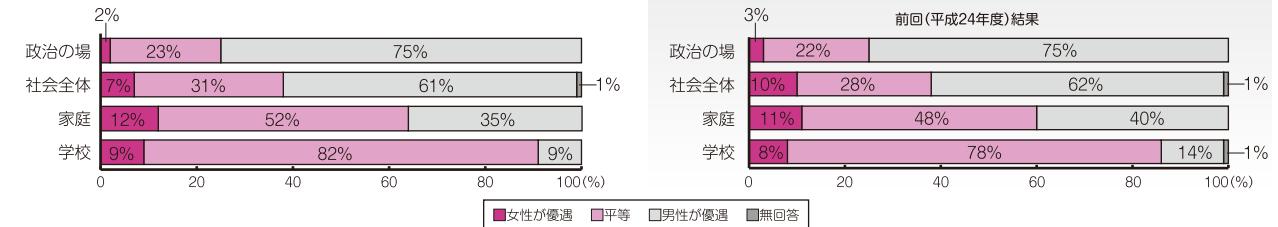
目的 1

高校生や教員の目に学校、家庭、社会等における男女の地位がどのように映っているのか

(1) 教員 家庭や社会などにおける男女の地位

前回と比較し、すべての項目で「平等」の割合は増加し、「学校」については、8割以上の教員が、「平等」としている。

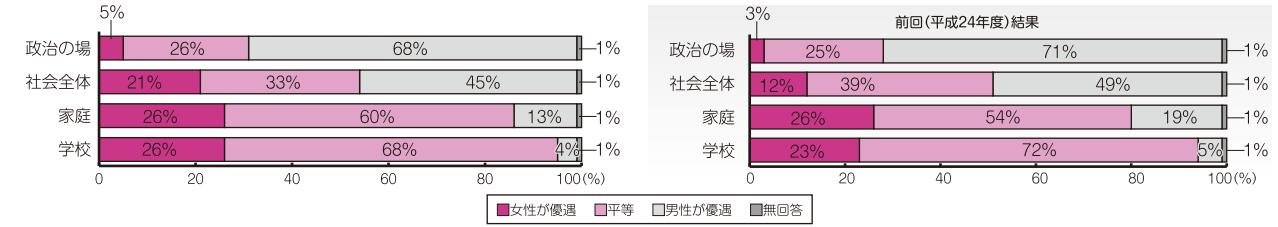
しかし、「男性が優遇」と回答した割合が「政治の場」では75%、「社会全体」では61%と高く、この傾向は、第1回調査（平成12年度）から変わっていない。



(2) 生徒 学校や社会などにおける男女の地位

前回と比較し、すべての項目で「男性が優遇」の割合が減った。

社会全体や学校については、「女性が優遇」が増えていたが、政治の場については、「男性が優遇」が7割弱と依然として高い値だった。



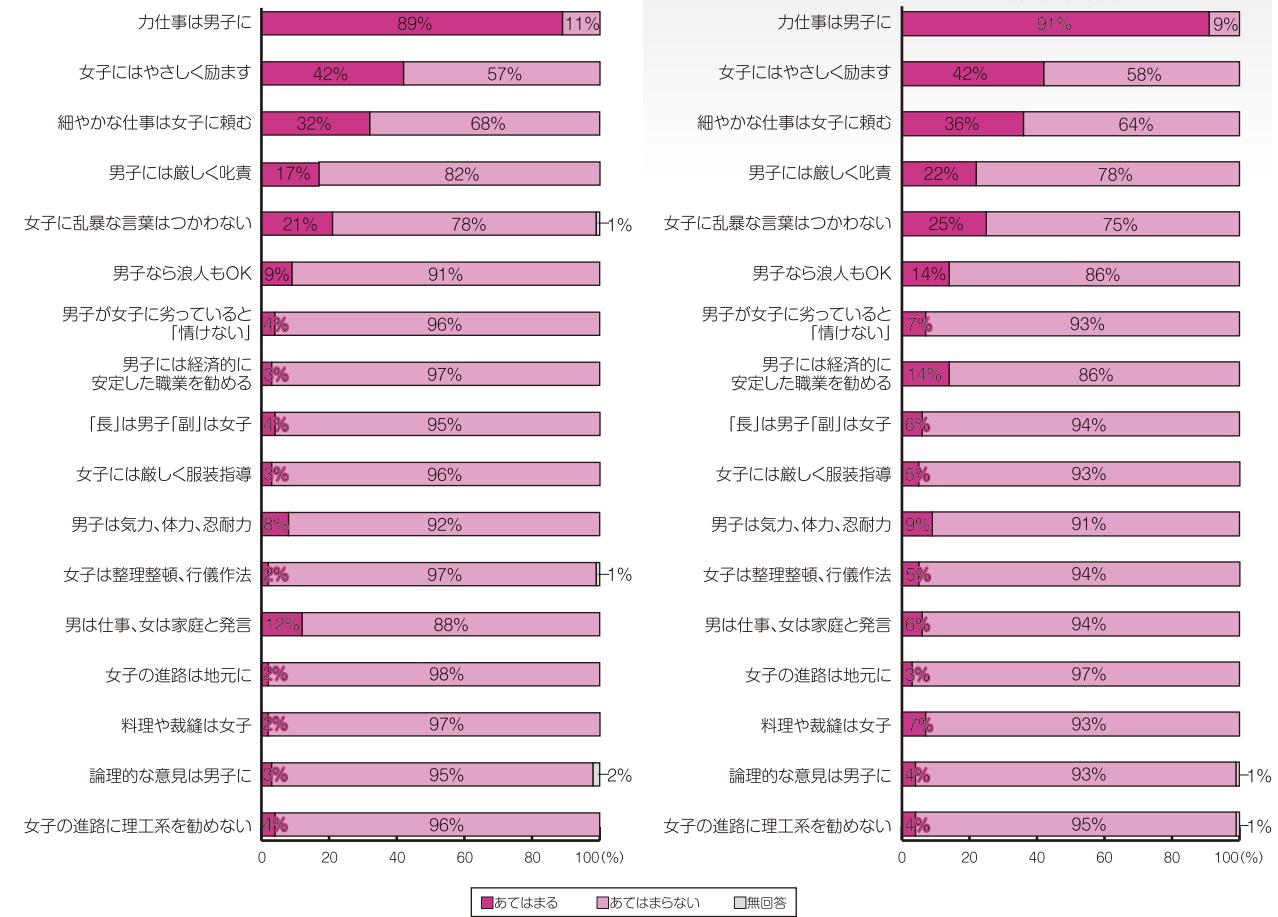
目的 2

学校や家庭において、女子と男子では扱われ方に違いはあるのか、または教員や保護者の接し方に違いはあるのか

(1)学校

教員 生徒の性別によって区別した扱いーどの程度肯定しているのか

前回と比較して、ほとんどの項目で、「あてはまらない」が増えているが、いくつかの項目で性別によって区別した扱いを行っていると考えられる。

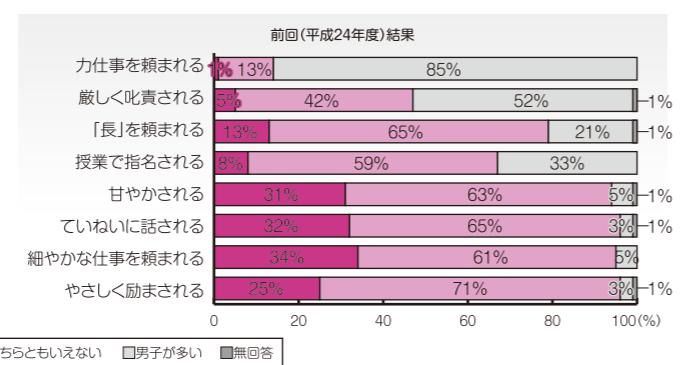
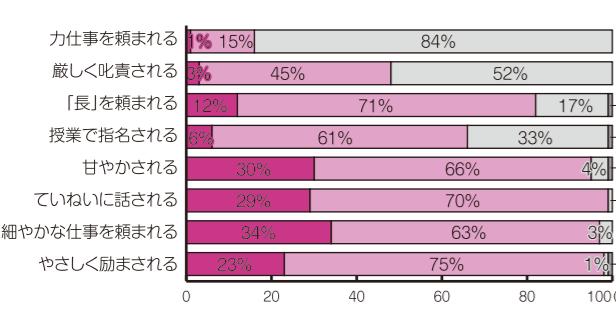


生徒 学校における生徒の性別による扱われ方の違い

ほとんどの項目において、「どちらともいえない」が増えた。

男子：前回と比較して大きな変化は見られなかつたが、「力仕事を頼まれる」や「厳しく叱責される」の項目について、他の項目と比べ高い値だった。

女子：男子生徒と同様大きな変化はみられなかつたが、「細かな仕事を頼まれる」の項目について、男子生徒より高い値だった。

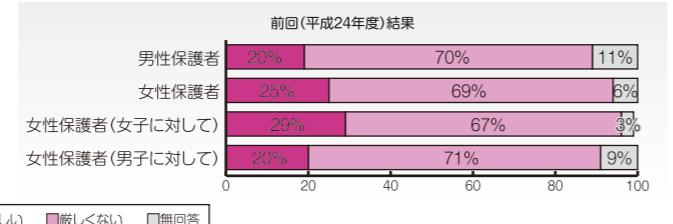
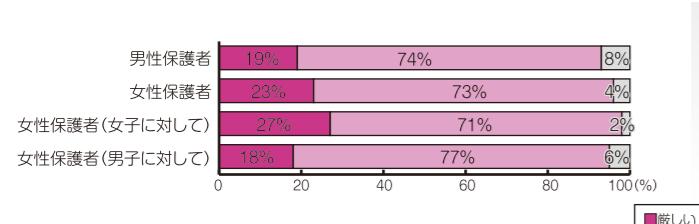


(2)家庭

生徒 保護者から「女らしさ」「男らしさ」についてどの程度厳しくしつけられたか

全項目で「厳しい」の割合が若干減った。

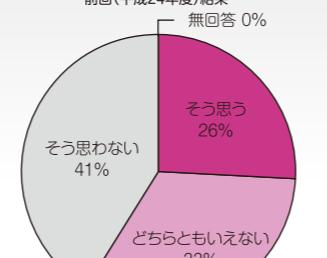
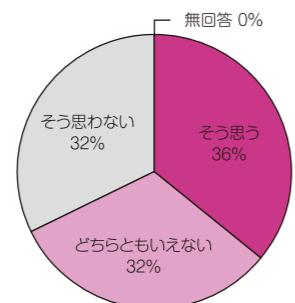
前回と同様に、女子生徒は女性保護者の方が「厳しい」と感じているようだ。



目的3 高校生や教員の男女についての考え方がどのようなものなのか

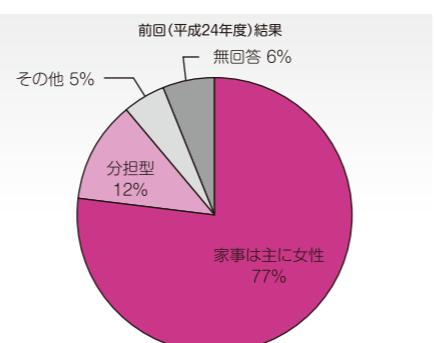
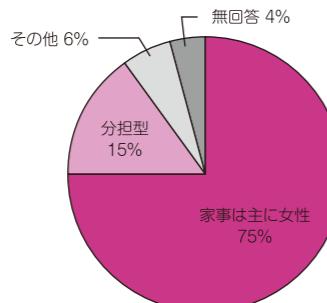
(1) 教員 男女の区別と差別

「男女を性別によって区別することは差別につながる」に対し「そう思う」との回答が、前回より10ポイント増え36%となり、「そう思わない」との回答は、前回より9ポイント減り32%となつた。「そう思わない」について、第2回調査(H19年度)の52%から減少傾向にある。



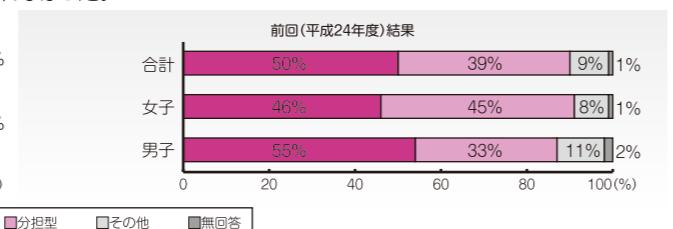
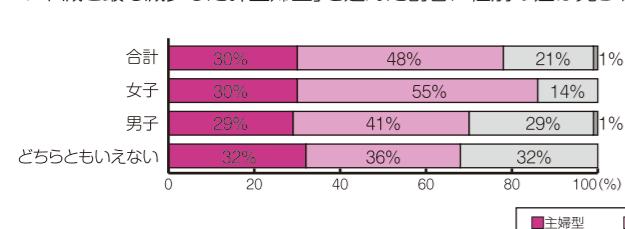
(2) 生徒 保護者の性別役割分業パターン

依然として、家庭で主に家事を行っているのは、女性であることが推察される。



生徒 生徒が理想とする夫婦の役割分担パターン

全体的に、主に家事責任を女性が担う「主婦型」が減り、「分担型」「その他」の割合が増えた。特に、男子生徒について、「主婦型」が26ポイント減と最も減少した。「主婦型」を選んだ割合に性別の差は見られなかつた。

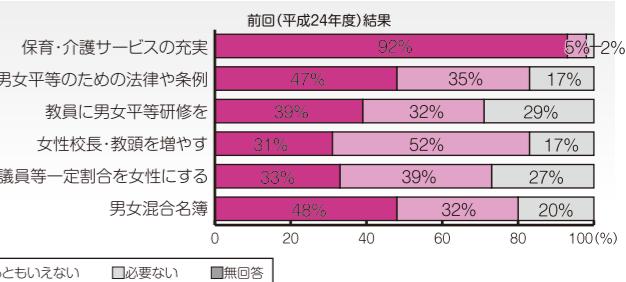
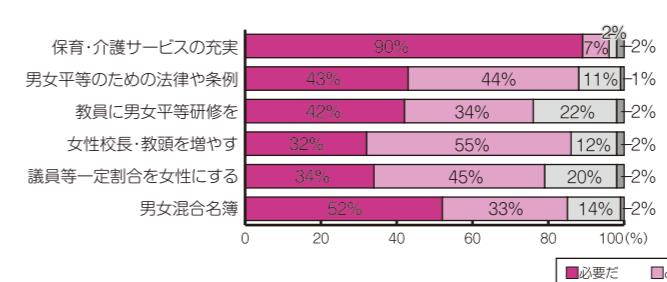


目的4 既存のもしくは予想される男女共同参画プランや考えられる施策にどのような反応を示すのか

教員 男女共同参画推進に関する施策への関心度

「男女混合名簿」については、前回より増え、約5割が必要と回答した。

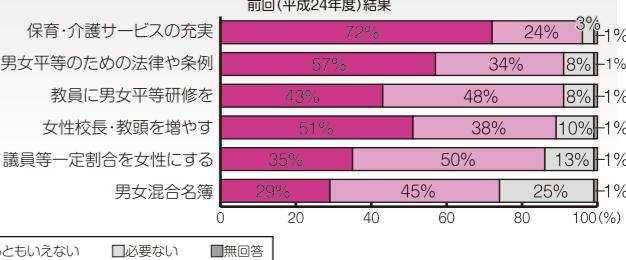
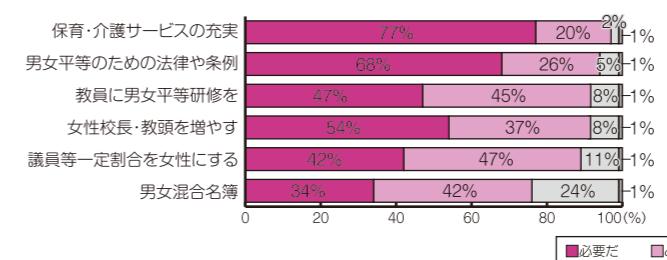
「女性校長・教頭を増やす」、「議員等一定割合を女性にする」については、「どちらともいえない」との回答が、それぞれ55%、45%だった。



生徒 男女共同参画推進に関する施策への関心度

すべての施策において「必要だ」との割合が増えた。その中でも「教員に男女平等研修を」との項目が11ポイント増と最も増えた。

「保育・介護サービス充実」の項目は約7割強と9割を超える教員と比べ、「必要だ」とする割合が低い。



まとめ

教員について

前回と比較すると、「政治の場」「社会全体」「家庭」「学校」の全項目において「平等」の割合は増えたものの、「政治の場」「社会全体」については、「男性が優遇」の割合が6割を越えており、これらの項目についてはまだ男女格差があると考えていることがうかがえ、この傾向は、第1回調査(平成12年度)から変わっていない。

「男女を性別によって区別することが差別につながる」に対して「そう思う」と回答した教員の割合は前回よりも10ポイント増加した。また、生徒に対し、男女を区別した扱いをした経験については、前回と比較するとほとんどの項目で「あてはまらない」の割合が増えた一方、項目によっては、男女を区別した取扱いをしているようだ。

男女共同参画推進に関する施策への関心度については、前回と比較して大きな変化はみられなかつた。「保育・介護サービスの充実」については「必要だ」との割合が9割と高く、次いで、「男女混合名簿」が5割となつていた。それ以外の項目については、「必要だ」との割合は約4割にとどまつていた。

生徒について

「政治の場」「社会全体」「家庭」「学校」の全項目で前回よりも「男性が優遇」の割合が減少した。また、「社会全体」については、「女性が優遇」の割合が9ポイント増え、21%と大きく変化した。しかし、依然として、「政治の場」では「男性が優遇」の割合が7割弱と高い値だった。

次に、学校における生徒の性別による扱われ方の違いに関して、すべての項目で「どちらともいえない」の回答が増えたが、生徒は、事柄によっては性別により扱われ方の違いがあると感じているようだ。

家庭においては、依然として7割強の生徒が家事は主に女性が担っていると認識していた。しかし、生徒の理想とする夫婦の役割分担パターンは、「分担型」が最も多かつた。前回で男子・女子ともに多かつた「主婦型」は、特に男子生徒については、26ポイントも減少していた。

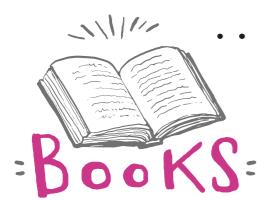
男女共同参画推進に関する施策への関心度については、ほとんどの項目で、教員と比較すると「必要だ」と回答した割合が多い。だが、「男女混合名簿」については、教員より「必要だ」と回答した割合が低かつた。

この調査は今回で4回目の実施となり、学校生活の中では教員・生徒共に男女平等であるという認識しているが、社会や家庭が変化していくても政治や社会における男女の地位について、「男性が優遇」と回答した教員及び生徒は6割を越えていた。その割合は、調査を重ねても大きな変化はみられていない。また、家庭内の役割分担においても、引き続き家事や育児の多くを女性が担っていた。これらのことから、男女平等意識は浸透している部分もあるが、性別役割分業が依然として根強く残っていることがわかる。

今回の調査では、性自認(教員用・生徒用共)に「どちらともいえない」の項目を追加し、調査を行つた。教員は0%だったが、生徒は0.6%(25名)との結果だった。また、教員に対し、「自己の性別に違和感のある生徒からの相談の有無」については、受けたことがあるとの回答が14%だった。「自己の性別に違和感を持つ生徒への誤解や偏見が起きないよう、教師への研修が必要である」の問い合わせについて、約4割の教員が必要だと認識していた。

今後も継続して、男女共同参画社会づくりの担い手となる生徒達が、男女平等に関する意識をより高く持てるよう、様々な情報提供とともに、男女共同参画社会を推進する社会環境・教育環境を整えていくことが必要である。

前回同様、参考調査として、私立女子高校にもご協力をいただき、調査を実施しました。その結果も含め、詳しくは報告書をご覧ください。今回の調査に御協力いただいた関係校の教員・生徒の皆様に対し、感謝申し上げます。



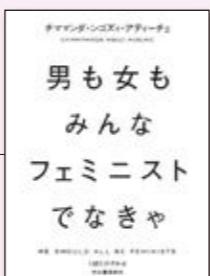
センター図書室の 【】

「ジェンダー」に関するオススメ本

『男も女もみんなフェミニストでなきゃ』

【分類1101/ア】チママンダ・ンゴズイ・アディーチェ/著 くぼたのぞみ/訳
河出書房新社 2017年

本書は、ナイジェリア出身の作家が行った、フェミニズムをめぐる講演録です。スウェーデン政府が16歳の子どもたち全員に冊子を配布したり、ディオールがTシャツにプリントしたりと、世界中で話題となりました。彼女は、こうある「べき」と規定するジェンダーの問題がなくなれば、女性も男性も自由で、本当の自分でいられると説きます。社会的、政治的、経済的に両性が平等な社会を目指すフェミニストになろうと呼びかけます。



『はじめてのジェンダー論』

【分類1103/カ】加藤秀一/著 有斐閣 2017年

ジェンダーとは、人間を女か男かまたは、そのどちらでもないかに分類しようとするとき、社会的な規範となる概念のことです。「男が少女マンガを読むのは恥ずかしい?」、「科学や数学は女に向かない?」、「女は子どもを産んで一人前?」など、日常で感じる違和感を、ジェンダー視点から読み解きます。章ごとに「読書案内」が載っていて、より理解を深めることができますので、ぜひ手に取ってみてください。



図書室の利用案内

当センター図書室は、男女共同参画関連図書を中心に、行政資料、雑誌、ビデオ、DVD等約4万点を備え、閲覧及び貸出をしています。

図書室入り口に特集コーナーとして、毎月テーマを決め、図書を展示しています。また、レファレンスも承っておりますので、是非ご利用ください。

○開館時間

午前9時～午後8時
(休館日前日 午前9時～午後5時)

○貸出冊数・期間

	貸出冊数	貸出期間
図書	5冊まで	15日以内
ビデオ・DVD	3本まで	8日以内

問い合わせ | 福島県男女共生センター図書室
電話:0243-23-8308



7月の特集「くらしの知恵」

LIBRARY GUIDE

未来館フェスティバル 2019

「誰にでも輝ける場所がきっとある 自分色のメダルをめざして」

令和元年9月7日(土)、8日(日)に開催します!!

7日(土)

●13:00～15:00

シンボルイベント

女子柔道のパイオニア 山口香さん講演会

「なりたい自分になる生き方
～スポーツから学んだ大切なこと～」



ソウルオリンピック銅メダリスト、現在はJOC理事で、筑波大学体育系教授の傍らスポーツ全体の普及に務められておられる山口さんに、スポーツ界での女性の活躍やこれまでと今後の課題についてお話をいただきます。

●9:30～15:30

各団体による展示、ステージ発表、 ものづくり体験

県内で活躍するみなさんの活動紹介、展示や発表、ワークショップを行います。



お楽しみイベントもあります!

スタンプラリーやバルーンアートなど、家族で楽しめるイベントも多数。
先着200名様に無料でそうめんを振る舞います。

●15:30～17:00

ネットワークカフェ 「つながり広がる交流会」

県内外で活動する皆さんとの情報交換や交流会を行います。



8日(日)

●10:30～12:00

認知症介護セミナー

「認知症ケア 心とからだにやさしい認知症情動療法®」



未来館フェスティバルの詳細は、随時ホームページやfacebookにて更新しています。
ぜひ、ご覧ください。

問い合わせ | 福島県男女共生センター事業課
電話:0243-23-8304
E-mail mirai@f-miraikan.or.jp

福島県男女共生センター

検索



女子!

「〇〇女子」という言葉は、様々な分野で聞かれるようになりました。「農業女子」や「土木女子」など、多くは男性が多い分野で活躍する女性を表す言葉として使われています。そこで、福島県内で「〇〇女子」として活躍する女性(たち)を紹介します。

今回は、田村市滝根町の「農業女子」の福福堂代表である稻福由梨さんにお話を伺いました。

「農業女子」 稲福由梨さん

福福堂代表

稻福由梨さん

○就農のきっかけ

都内の小学校で管理栄養士として働いていた時、野菜は産地によって味が違うことに気づき、農業に興味を持ちました。それから、休日を利用して全国各地の農業体験プログラムに参加するようになりました。東京出身の私には、農業や田舎は縁遠く、農業体験は新鮮で、楽しいものでした。ですが、農業体験を通して感じたことは、農家の高齢化と後継者不足でした。10、20年後の日本の農業はどうなってしまうのかと危機感を感じ、「水と気候と恵まれた環境があるので、作り手がないのはもったいない!」と思い、いすれは農家になりたいと考えるようになりました。

2009年、田植え体験で訪れた田村市滝根町で受け入れ農家だった和之さんと出会い、2011年3月12日に結婚式をする予定でしたが、東日本大震災が発災し、移住は1年延期になりました。夫は、農作物の販売自粛の中、空間線量や土、野菜の放射線の検査など、安全性を確認しつつ、農業の継続を決心しました。



2012年に移住し、仕事をしながら主に週末に農業をする形で就農しました。そして、翌年、震災後、福島で頑張っている地域の農家さんの助けになればと思い、管理栄養士として働いていた経験を活かし、「福福堂」を立ち上げ、農産物の加工品作り、6次化に取り組んできました。しばらくは、仕事と農業と委託加工を行っていましたが、高齢の農家さんから農地を借り受けることになり、仕事との両立が難しくなると考え、本格的に就農し、現在4年目になります。



田村市滝根町神保字入新田156
Facebook:fukufukudou



稻福由梨さん(右)と夫の和之さん(左)

○お仕事の内容

米(黒米、ひとめぼれ、こがねもち)、小麦、エゴマ、ブルーベリーなどを夫と一緒に農薬や化学肥料を使わずに作っています。また、自家栽培した農作物で黒米の甘酒やブルーベリージャム、エゴマを使った加工品を製造し、地元の直売所やインターネットなどで販売もしています。

その他、委託加工は地域の農家から農産物を預かりジャムなどを作ったり、農業体験を受け入れたり、料理教室の講師もしています。自家栽培の小麦を使って焼き菓子を作つてマルシェに出店したりと、毎日あつという間に過ぎますが、やってみたいことがたくさんあって楽しいです。農業だけではなく、加工品の製造を行つて多くの方と交流ができ、「この前買った野菜がおいしかったよ。」と言ってもらえるとすごく嬉しいです。

農業は、同じように育てても収穫量が違つたり、天氣にも左右される大変な仕事ですが、例えば、苗植えや畠の草むしりなど、成果がよくわかりますので、達成感を感じることができます。また、手をかけて育てた野菜や果実を収穫する時は嬉しいですし、何より作った物をおいしいと笑顔で食べてくれる人がいることがやりがいです。

○今後、取り組んでみたいこと

次の目標は農家民宿を開くことです。農業体験も含めた里山の自然を体験して、泊まってわかる地域の良さを知つてもらい、土地のおいしいものや農業に関心を持つてもらいたいと考えています。民宿は、飲食店と違って予約した方しか来ないので、食品の口数を出にくいくとも生産者として良い点だと思います。里山暮らしや農業体験の機会を増やすことで、農業に関心を持つ人が増え、農業の担い手を増やす一助になればよいと思っています。

これからも里山の暮らしを楽しみながら、福島の農業を残していくよう、いろんな事にチャレンジしていきたいと思っています。

